

虚血性心疾患 (きょけつせいしんしつかん)

はじめに

狭心症と心筋梗塞を合わせて虚血性心疾患といいます。
最近有名な女優さんも若くして心筋梗塞になったそうですが、
今回は虚血性心疾患について解説したいと思います。

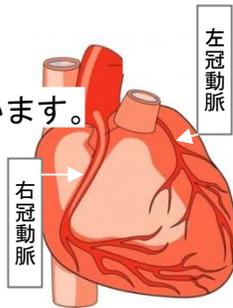
患者数

厚生労働省の平成20年度の調査では、
虚血性心疾患の総患者数は80万8000人で、
男性は46万4000人、女性は34万8000人でした。
心疾患の死亡者数は癌に次いで第2位です。
心筋梗塞の死亡者数は4万3000人で、心疾患死亡者数の半分以上を占めています。



狭心症 (きょうしんしょう)

動物が生きて行動するためには、血液が運ぶ酸素が必要です。
その血液を全身に送り出しているのが心臓ですが、
この心臓が動くためにもやはり血液が必要です。
心臓を動かすための血液が流れる血管を冠動脈かんどうみやくといいます。
人の心臓にはこの冠動脈が左右に1本ずつあり、
左冠動脈はすぐに2本に枝分かれするので、
合計3本の血管で栄養されています。
この冠動脈のどこかが動脈硬化で狭くなると、
階段や坂道を登るような労作時に心臓がたくさん動きたくても、
狭い血管ではたくさんの血液が流れないので、心臓が酸欠になって
胸が痛くなります。
これが狭心症発作で、このような狭心症を労作性狭心症ろうさせいきょうしんしょうといいます。



それとは別に、冠動脈に動脈硬化による狭窄はみられないけれども、
血管がケイレンの発作を起こしてギュッと縮んでしまい、
血液が流れにくくなることで狭心症発作を起こすものです。
これは冠れん縮性狭心症かんれんしゆくせいきょうしんしょうとか異型狭心症いけいきょうしんしょうと言われます。
冠れん縮性狭心症は黄色人種に多く、白人には少ないと言われます。
また血管がケイレンを起こす発作は、早朝に起こりやすいのが特徴です。

心筋梗塞 (しんきんこうそく)

労作性狭心症の狭い血管がさらに狭くなり、ついには詰まると、
心臓の一部が腐ってしまうのが心筋梗塞です。
しかし、最近の研究では狭心症が進行して心筋梗塞に移行するのは
意外に少なく、その多くは狭心症の症状が出ないような冠動脈の
軽い動脈硬化から発症することが分ってきました。
動脈硬化は血管の内側にコレステロールが蓄積することから始まり
ます。
この血管壁に貯まったコレステロールの塊はプラークと呼ばれ、
できてから新しいものは柔らかくてもろいのです。
もしこのプラークに傷がついてはがれると、そこに急速に血栓を形成
して血管を閉塞してしまいます。
こうして狭心症の前触れも無く、突然心筋梗塞を発症してしまうの
です。

今回は虚血性心疾患の概要を解説しましたが、
その診断や治療についても順次解説していきますので、
楽しみにしててくださいね。

